

1 津山市重点取組

津山市立高田小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	①研究主任・各担任 ②学力向上担当・各担任・管理職 ③各担任・管理職	①高田の校内研究のテーマのひとつでもある「家庭学習と授業のつながり」のある予習的課題を出す。 ②放課後補充学習 ③全校漢字テスト	①6月末までに予習的課題の習慣化 ②放課後補充学習(6月～) ③全校漢字テスト(学期末)	①国語では、一人で学びの時間のやり方を学校で教え、次時からは、家庭学習でさせ、全員が自分の思いを持たうえで授業に参加させる。社会では、前時にキーワードを与え、それについて予習させ、調べたことを授業で交流していく。 ②学力テストの課題や、授業のつまずきなど、4～6年は毎週木曜日(1～3年は毎週火曜日)に算数プリントを2枚させる。 ③90点以上を合格とし、合格になるまで、何度もさせる。	①全員が授業に意欲的に参加する。 ②算数の数値2ポイントアップ ③各学期の漢字の定着8割以上
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	①生徒指導主事・家庭・各担任 ②児童会担当	①高田っ子カードの取り組み ②児童主体のスマホの取り組み	①年3回 ②12月まで	①家庭学習の時間、メディアの利用時間の調査をする。担任が意識的に声掛けをし、また、家庭との連携を図る。結果を家庭に返すことで、保護者の意識も高める。 ②児童会(6年生)でスマホの正しい利用の仕方を考え、全校に伝える。保護者にもお便りを出し、伝える。	①家庭学習時間(学年×10分+10分)達成9割以上 メディアの利用時間2時間以内8割以上 ②児童作成によるスマホルールの徹底

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>○国語、算数ともに県平均と比べると正答率が低い。 ○国語では、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしてまとめて書くこと、文法・文作り(文の分け方等)に課題がある。 ○「質問の工夫の理解」:本校71%(全国67%)、▲「調査の内容と結果で分かったことをまとめて書く」:本校10%(全国29%)、▲「接続後を使って2文に分けて書く」:本校33%(全国48%) ○算数では、特に「量と測定」の領域で課題がある。 ○「水の使用量が何倍かグラフを読み取って書く」:本校81%(全国79%)、▲「面積の求め方を説明する式 20-4の理解」:本校19%(全国44%)▲「1800÷6の式の意味を理解する」:本校24%(全国47%)</p> <p>県【3～5年】</p> <p>○同一集団における経年変化では、4年・5年ともに標準スコアの向上が見られた。(国語:4年3.2↑ 5年3.9↑、算数:4年1.1↑ 5年1.5↑) ○4年算数は県平均と比べると正答率が高い。3年国語・算数 4年国語・算数は県平均と比べると正答率が低い。 ○国語では、「説明文の読み取り」「条件に合わせて書く」に課題がある。 ○算数では、「図形」「グラフの読み取り」に課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○平日の家庭学習の時間が1時間以上の割合が52.4%であり、全国平均(66.1%)に比べて低い。 ○スマホの使用時間が1時間以上の割合が33%である。 ○「自分には良いところがある」と思っている児童は割合が23.8%であり、全国平均(38.8%)に比べて低い。 ○テレビ等の視聴時間が1時間以上の児童の割合は、38%である。 ○「読書は好きだ」という項目に肯定的な児童の割合が81%であり、全国平均(75%)に比べて高いが、「平日、1日当たり1時間以上読書をしている」という児童の割合は、全国平均に比べて低い。 ○「あいさつ日本一」の学校を目指し、全校であいさつの取り組みをしているので、あいさつの項目について肯定的である。 ○「国語の勉強が好き」という項目に肯定的な児童の割合が76.2%、「算数の勉強が好き」という項目に肯定的な児童の割合が76.2%で、どちらも全国平均に比べて高い。</p>

成果
<p>○学校全体で全校漢字テスト、放課後補充学習(算数)に取り組んできた成果で、基礎基本の定着に繋がった。 ○3～5年では、県平均よりも低かったが、差が縮まったのは、基礎学力の定着に向けて補充学習等に学校全体で取り組んだことが、低位の児童の底上げとなった。 ○家庭学習で週末課題を出した後、月曜日の朝学習で解説することで、活用問題の力がついている。 ○毎日の授業の中で条件に合わせて「まとめ」「振り返り」を書いたり、行事作文に取り組んだりすることで表現力が伸びた。 ○授業改善により、課題に対してじっくり考え自分の思いをつくらせることに大切にしている。そして、学び合いを通して、読みを深める学習を積み上げている。 ○授業とつながりのある予習的課題を出すことで、学習意欲が高まった。</p>

課題
<p>○学年が上がるとつれて、家庭学習の目標時間達成率が下がり、メディア利用時間が増加する傾向にある。 ○学校で「おすすめ200冊」など、読書を奨励する取組を通して、様々な本を読む機会が増えているが、個人差が大きい。家庭への働きかけや連携が必要である。 ○書く目的や対象、条件(字数・使用語句・立場など)に合わせて書くことが苦手である。 ○算数では、「図形」は全学年、「グラフの読み取り」は3～5年に課題があるので、さかのぼり学習をしたり、系統立てた指導をしたりすることが必要。 ○全学年で予習的課題に取り組むための系統性が課題である。</p>

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月未現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
授業改善 ・学び合いの授業 ・まとめ、振り返り ・学びの足跡の掲示	2月末	条件を満たした表現ができる70%	・授業の中で、小グループでの話し合いの時間を確保することで、自分の考えに自信をもったり、考えを深めさせたりする。 ・まとめや振り返りなどで条件を提示して書かせる。 ・学びの足跡を教室に掲示し、いつでも振り返りのできる環境にする。					
漢字や文法や計算などの基礎学力の定着	2月末	正答率80%	・効果が上がっている全校漢字テスト、名文暗唱は継続する。該当学年の漢字の習熟を図る。また、新出漢字を使った文章を作らせ、読解力を広げる。 ・週末課題(月曜日朝読)、放課後補充学習(1回で2枚、真書Webから苦手な問題、さかのぼり学習)で、基礎学力の定着を図る。					
家庭学習の定着と充実	12月末	各学年の目標時間達成 80%(学年×10分+10分)	・自主学習について、意欲の喚起・継続を促しながら、内容の向上を目指して取組を進める。 ・授業と家庭学習をつなげる取組をする。 ・高田っ子カードの取組回数を増やし、家庭学習強化週間などを設け、保護者の意識付けや協力を促す。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組
<p>○「時を守り、場をきいし、礼をつくす」中学校ブロックで共通の目標を設定し、系統性のある指導をする。 ○チャイムスタート、黙祷、あいさつを重点的に指導する。 ○年2回の小中連携の日を設定し、情報交換とともに教職員とのつながりを深める。 ○津山モデル学区として歩調をそろえて、PDCAを循環させる</p>

保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○「高田っ子カード」の結果をPTA新聞に掲載し、家庭学習の確保と、メディアの適切な利用、読書の取組やあいさつの徹底を呼びかける。 ○ホームページの取組を家庭を巻き込んで行う。 ○学校支援ボランティア事業で、地域人材を活用し、活動を通して地域と学校をつなぎ、地域の中の学校として一緒に子どもを育てていく。</p>